



町議会報告

災害復旧費一千四百万

分担金条例とともに可決

さる十一月十一日に招集された第九回臨時会は、懸案の七月災害に對する町営復旧事業関係の一連の議案を中心として、ほかに伝染病舎関係規約の一部改正および継続審査中の請願一件、新規の請願四件が審議された。八月八日の臨時議会において、橋地区から提出された町営による災害復旧工事の請願が採択されて以来、町当局では鋭意これに對する準備を進めていたが、国の査定を終わつたものうち二十四地区一千四百四十九万円を第一次分として特別会計を設定し、これに伴う分担金条例とともにこの議案に提出したもので、いずれも原案どおり可決された。

第一次分は

二十四地区

一千四百四十九万円という今回の災害復旧予算も、総計六千百万あまりにのぼる七月災害の総額から見れば、その四分の一にも満たない額である。残りの大部分は明年度以降にまわされる見通しで、今回は特に急いで施工を要する分について計上されたものであるがその内訳は次のとおりである。

- ①本工事費
- ②工事雑費
- ③事務雑費
- ④公債費の四つに分けられる。このうち本工事費はいわゆる工事請負費であつて、二十四地区の合計額は予算総額の九十七パーセントにあたる一千四百五十一万六千九百円である。これがいままでもなく事業費の主体であるが、地区の内訳は橋地区二十、上野地区一、仙田地区三と橋地区が圧倒的に多い。工事雑費は事業主体(町)が工

才入

以上の事業費に對する才入は、①国庫補助金②受益者からの分担金③町債④一般会計からの繰入金によつてまかなわれる。

国庫補助金九百七十八万六千六百円これは農業用施設に對して六十五パーセント、農地及び関連工事に對して五十パーセントとして算定

した合計額である。分担金百五十三万四千四百円、これは事業費総額から国庫補助と長期起債(町債)を差し引いた残額で各受益者から徴収する額である。事業費に對して約七パーセントに当たつてゐる。町債四百十九万円、これは事業

原案作成に慎重な手続き

分担金条例の成立まで

町営災害復旧事業を実施するための資金は、その大部分を国庫補助金に依存するほか、長期起債と各受益者から徴収する分担金によつてまかなわれる。また長期起債の償還についてはその九十五パーセントが地方交付税として国から交付されるので、残りの五パーセントについてはやはり年々受益者から分担金として徴収することになる。これらの分担金を徴収する

費総額から国庫補助金を差し引いた、いわゆる地元負担金の八十パーセントに当たる額で、長期起債として借り入れるものである。繰入金十六万八千円、これは一時借入金の利子に當るため一般会計から繰り入れる額で、才出の公債費と符合する。

においてさる十月二十八日に公聴会を開き、利害関係者及び学識経験者の意見を聞いて原案を作つたものである。なお、すでに町村営災害復旧事業を実施している中里村や十日町市の例等も参考とされたもので、これらの経過について増田委員長から詳細な報告が述べられた結果、原案を了としてこれを可決したものである。なお、将来もし地方交付税が交付されなくなつた場合は、長期起債の償還についてはその全額を受益者が負担することになる。

刃物を持たせるな

浅沼事件以来、青少年に刃物を持たせない運動が全国的にもりあがっています。あなたのお子さんが、コッソリと危険な刃物を持つてゐるかも知れません。犯罪を未然に防ぎ、不良化を防止してください。(川西町保護司会)

戸籍の窓から

たかさご一御円満に

- 新婦 大井 紳一 中央町
- 新婦 庭野アヤ子 十日町から
- 新婦 中島 忠一 下平新田
- 新婦 小林 キイ 神社町から
- 新婦 高橋 正義 東善寺
- 新婦 柳 愛子 山谷から
- 新婦 田中 基 小白倉
- 新婦 江口貴代栄 小白倉から
- 新婦 田村賢太郎 上野
- 新婦 上村 チカ 上野から
- 新婦 押木 一雄 元町
- 新婦 相崎ノブイ 沖立から

昇天一御めい福を祈る

- 原沢 俊一 文雄 長男 中仙田
- 新婦 登坂 作一 赤谷
- 新婦 高橋ヒサエ 赤谷から
- 新婦 登坂 等 赤谷
- 新婦 大熊 初枝 十日町から
- 新婦 南雲 幸春 中仙田
- 新婦 高橋 礼子 坪山から
- 新婦 青木 一郎 小脇
- 新婦 桑原 キイ 桐山から
- 新婦 登坂 茂男 岩瀬 四一
- 川崎 作治 越ヶ沢 五六
- 川崎 晋吉 越ヶ沢 六八

ふるさと

町(三十四年度)の死者数の死因別分類によると、悪性新生物によるものが十九名で二番目になっている。一番多いのは脳いっ血で二十九人、結核はただのひとりである。一年さりの統計でしかないが興味のある数字だ。悪性新生物、つまり一般にはガンと呼ばれている病気が、五十年前後の人がほとんどである。不治の病とされているガンは、このままの状態で行くと十年後には十二、三人にひとりの割合でまんえんするおそれもある。ガンが多くなつたのは診断法が進歩したせいだともいわれる。やせる、食事に關係なく胃腸が痛む、つねに胸やけがして便が黒い、こつこつした症状の人は、ガンが危険なところ。婦人もめだつてかかりやすくなつた。たばこが原因だとも聞く。医学的にもはっきりわかつていないのがこの病気のさ、将来の見通しもたつていない。レントゲン線やラジウムを使った物理療法がある。薬学の面で、悪性の腫瘍を外見のみに萎縮させ、病状を好転させた毒ガスが薬のきっかけとなつた話もある。が、いずれも治療に對する決定的な効果は期待されていない。いま残されているのは病状の早期発見ということではないか。町でも潜在反応検査、健康調査を同時に実施して初期の症状発見につとめてゐる。町が実施するといつても、この種の問題は自分自身で自分のからだに對する解答を出すべきだから、検体(大便)の提出が多ければ喜ばしい。(乙)

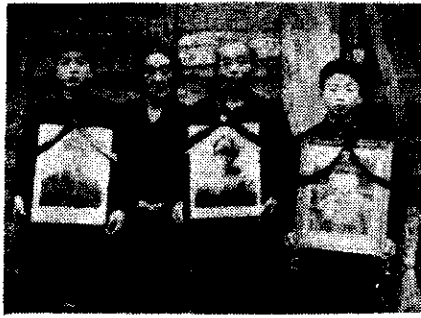
# 平和を願う老夫婦

## あととり三人を戦争で

次男と三男を戦争でうしない、生死不明の長男に望みを託して生きた十五年だった。「どこかに元気でいる。きつと帰ってくる……」ただそれだけを信じて生きた老夫婦に、その最後の夢も消えた。さる十一月十日のこと、冷たい雨の暮れがたにむすこの魂が帰ってきたのである。このなげきの人は、岩瀬の登坂紺治(七十才)さんと妻テイ(六十四才)さんのふたり。お国のためだ。たとはいえ、あと継ぎをみんななくした悲しみはあまりにも深い。

### 誓つて国を出たむすこ

紺治さんは明治二十二年十一月の生まれ、岩瀬の紺屋の長男に育った。達者でよく働き、青年団の幹部を勤めたりして村の模範青年だった。二十七才のとき隣家(カシ)のテイさんと夫婦になり、大正八年には茂男さんが、十年には



なげきの登坂さん一家  
左から誠君、テイさん、紺治さん、茂男さん、衛さん。

慶助さんが、十一年には衛さんが十三年にはアサさんが生まれて円満に暮らしていた。

この親にしてこの子ありのたえ、四人がみんな働き者で成績も良く、人もうらやむほどの家庭だった。茂男さんにそろそろ嫁はなしが出ようというころ、あの戦争が日まじしに苛烈をきわめ、三人とも歎呼の声に送られて行った。長女のアサさんは、出陣まきわの登坂(田中)さんにとついで。武運長久を祈る紺治さんが、益おどりにきれいな声をきかせたものころだったという。

### 三男が比島で 次男は満州で

長い戦いは終わった。子どもたちの仲間がぞくぞくと帰ってくる。「うちの子もやがて……」四年間をそう待ちわびた紺治さんに悲しい第一報があった。三男の衛さんが、比島の山中で戦死したというのである。「気の毒に……」となぐさめてくれる人はあっても、晴國の父や母として生きられる時代で

はなかった。「ひとり死なせた、これで人なみになったのだ」こう口にしたテイさんは子をうしなした親の悲しみをかくして、残されたふたりの帰る日を待つようになったという。が、それからまもなくのこと、次男の慶助さんが、満洲の陸軍病院でなくなったという知らせがあった。涙一つ見せなかつたテイさんも、小屋の中では大声をあげて泣いた。慶助さんは召集解除後に仙田開拓団の一員として大陸にわたった人、内地から花嫁をむかえ、二男一女に恵まれて平和に暮らしていたが、現地でふたたび召集を受けて帰らぬ人になったもの。へま未亡人が、三男を連れて引き揚けたのは七年前の夏だった。遺骨が帰ったのはその後である。

### 長男にも 死亡宣告

それからというもの、「茂男の生存をたしかめたい」という紺治さんは、あらゆる手をつくして調査してもらった。「もしや……」とは思いつつも、心の中では生きていてくれることを願った。が、照会の返事が小だんすにいっぱいたまって、茂男さんの消息をつかむことはできなかったのである。茂男さんは昭和十六年七月に応募、模範兵として牡丹江の幹部教育隊に入隊したが、ソ連の参戦により国境に出勤した。二十年の十月までシベリアにいらしたことがわかったが、それ以後のゆくえは不明で何の手がかりもなかった。こうして紺治さんのなげきとは別に、茂男さんは川西町ではじめ

ての戦時死亡宣告による取り扱いを受け、ことしの十月二十一日付で死亡とみなされることになった。最後まで生存を信じてきた茂男さんも、ついに生きては帰らなかつたのである。

### 悲しみにたえて 孫たちと

紺治さんとテイさんは、こうして人の何倍もの苦しみを味わつた。そして人の何倍も働きながら、決してその悲しみを口にはしないのである。現在、慶助さんの遺児である誠君(仙田中二年)と民基君(赤岩小六年)を相手に、五十七アルの水田を耕作している。「誠と民基がよく働いてくれるので」と言い、きょうも七月災害の田つくりにとりくみ、いまも村いちばんの働き者でとがっている。「よく頭がグレなかつた」とテイさんは言う。「子どもたちのことは、生まれ変わった日本の礎石になつたと思ひあきらめました。戦争はもうごめんです」こうつぶやいた紺治さんのことは、平和への願いがこもっていた。

### 四人もなくした 人があつた

この町には、西南の役(明治十四年)に散った金子熊吉(大倉)さんほか四百九十四名の戦没者がある。このうち前記の登坂さんを含め、三人以上の犠牲者を出した家は次のとおりである。

- 木落の田口アヤ(さくべえ)さん。二男の二男さんが内海西部の地区にはまだごんな悪い人がいることを悲しく思いました。子どもたちが知ったらどう思うでしょう。

男の直治さんがソロン海域で戦死した。実家は、ただひとり生き残つた長男の一男さん(町役場庶務係長)が継いでいる。

- 木落の山家直治(とおごろう)さん。兄の丑太郎さんが中支で、京平さんがルソン島で、十一さんがニューギニアで戦死した。
- 下原の須藤イセ(きそうえん)さん。長男の健一さんが北支で二男の達男さんが北太平洋で戦死。三男の春芳さんが内地で戦病死した。実家は四男の良平さんが継承。
- 原田の丸山リク(しんや)さん。弥作(亡夫の弟)さんが清国で、二男の正一郎さんが釧路の東南海上で、四男の佐久治さんがイソパールで戦死、実家は三男の精二郎さん(町役場勤務)が継いだ。
- 新町新田の若山リト(ほうえん)さん。長男の源作さんがマリアナで、二男の憲治さんが広西省で、三男の勝栄さんがビルマで戦死した。実家は末っ子の六郎さんが継いだ。

### 帰らぬ人が まだふたり

さる二十七日、高橋義平(室島)さんの遺骨が無言のお国入りをした。昭和二十年八月十五日に、牡丹江でソ連軍に激突して戦死と推定されたもの。実家の母ノイさんは、長男の政栄さん夫婦と孫三人を相手に暮らしている。

戦後もすでに十五年、だがあのツメ跡は消えていない。この町にはまだ帰らない次の人たちがある。●坪山(おとまつ)の中村松栄さん。昭和十六年四月に現役兵として入隊、二十年九月に仏印で消息を断つた。当時現地の越盟軍が日本軍に入隊を勧めたという事実もあり、これに加盟したかもしれぬとのこと。生存説もある。

- 中仙田(はんねん)の小林乙さん。二十年四月に渡満して現地で嫁入り、同年七月には北鮮の元山にいた。それ以後のゆくえは不明、生存説も強いといわれる。

### 替えられた長ぐつ

ある夜のこと。学校へ映画を見に行きました。玄関のゲタだなに長ぐつを入れて置いたのに、終わって帰ろうとしたらわたしの長ぐつがなくなつてありません。そこには人の、クタビレタくつがはいっていました。わたしの買ったばかりの新しいは買ったばかりの新しいかえてアササを、人様からへんな目で見られるはいいかと心配しています。当局は善処してください。(仙田 若いオジ)

### 町の声

この春むすこに嫁をむかえ、戸籍上の手続きをすませました。ところが、予防注射などの通知や選挙の入場券は、いまだに結婚前の姓で実家にとどけられるのです。家族のひとりとしてあたたくかえてアササを、人様からへんな目で見られるはいいかと心配しています。当局は善処してください。(仙田 若いオジ)

### 手続きはどうした

この春むすこに嫁をむかえ、戸籍上の手続きをすませました。ところが、予防注射などの通知や選挙の入場券は、いまだに結婚前の姓で実家にとどけられるのです。家族のひとりとしてあたたくかえてアササを、人様からへんな目で見られるはいいかと心配しています。当局は善処してください。(仙田 若いオジ)

# 組織づくりはもうできた

## 今後は部落の活動に重点

この町の町青年団連絡協議会は、さる十一月十三、四日に農業センターでひらかれたあの指導者研修会をもつて、組織だった活動が一段落した。あとは四地区の連絡がほとんどすれがちな冬期を、文化部が機関紙「青年」を発行すれば、当初に計画した事業のすべてを完了する。この町の活動があるていど成功をおさめていることを、年度はじめの、青年団の組織をしっかりとしたものにする」という目標がほぼ達成できたという解しやくにおきかえ、当事者の立場から二、三の点でふりかえってみたい。

### ありがたかった

#### 十 万 円

青年団といえは、ことし特筆しなくてはならないできごととして育成請願の問題があった。

結果は、昭和三十五年度の育成金として五万円、さらに再建費という名目で五万円、合わせて十万円が交付されることになった。この間の事情は本紙(七月号)にくわしく述べられているから、ことしまかにふれる必要はない。が、これまでの町当局の考えとすれば青年団に対する助成についてはあくまで活動実績をみてからのことという、ここ一兩年の基本的な線があったと聞いている。

で、それならば請願当時、青年団には町当局の考えにそつような実績があったかというところはない。ただわれわれの中で、「組織をしっかりと活動への可能性をふくんだ青年団にするんだ」という意欲のもりがあり、それと数回にわたる会合によって、具体的

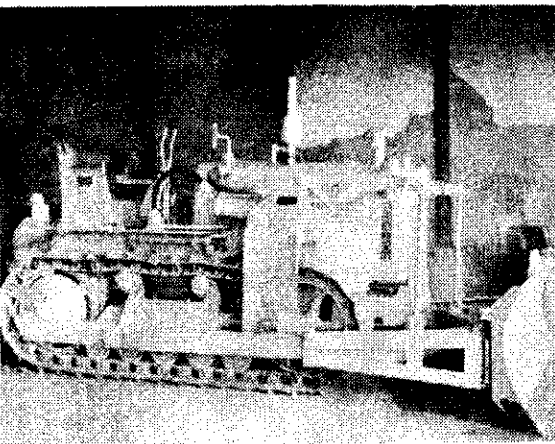
青年自身の立場でいうと、再建の道をつみ出したという事実になるわけである。これは、青年団の必修性がとかくの論議をまきおこしたことに對する町の青年の解答であるはずだし、一般の研修会でもこの点は再確認されている。

### これから

#### 活動に期待

新しい青年団の組織について特徴とするのは、部落の青年会に組織の基礎をおいている点である。従来の組織では、四地区の各連合青年団に足がかりの比重が重かったため、形の上ではともかく、内容的にはややもすると町の青年が一致してという目的の達成をかくらみかであった。

新しい組織の結果として、部落単位で協議会に参加することの効果が一番でいたのは、農業センターで行なった研修会であったと思う。この会の参加者間に親しみ



町のブルドーザー

町でブルドーザーを買った写真がそれ、除雪板は520万円(排土板、レーキ板)を、林道や公共施設の敷地を整理し、冬期には1月撮影……押木秀治

があったという点はとくに指摘してもよいことで、偶然ではない。現在、町の協議会に参加している単位青年会の数は三十にのぼるが、活動の基礎は部落において地域にかたよった観念を青年の手でぬぐいさるのに近いことだと思ふ。その意味から具体的な事業で今後の実績発表大会などが、全町の視野にわたった問題のスタートの場として運営されることを考えている。

書くことにまとまりのないまま結論めくが、青年団の有用性を証明する事業は数多くある。しかし青年自身の主観の立場からその必要性をうたいあげることが案外むずかしい。たとえば、わたしたちの恋愛論がしばしば物かたりのになつてしまふようなものかもしれないのである。進行の過程ではつかみにくい問題だと思ふ。どんなものか。そして、ややもすると、「さして活動もしない青年団が多

額の金をもらった」と批判するむきもある。これは、批判する人の認識不足をせめる以前に、わたしたち青年団がよく考えなければならぬ問題でもあるようだ。これからの活動に期待している。

### 町の掲示板

#### 成人講座を開設

町主催の成人講座を、次の地域で開設することにきまつた。一分団、中央町、元町、野口、下原、岩瀬、期間は一月から三月まで。

#### 青少年協の総会

二十一日に、役場で青少年問題対策協議会の総会をひらく。中越児童相談所の高木所長を招き、青少年の不良化防止について懇談。

#### ラジオ農業学校

◎十五日 (1)にわたりの解体。◎よい豚の子のとりのりかた。ことしの集合研修はこれが最後、農業センターで反省会を兼ねて行なう。

#### 届け出は年内に

拠出制の国民年金は、四月一日から適用される。被保険者の届け出はことし中に社会係りへ。

#### 新年の俳句募集

◎新年雑詠を五句以内 ◎シメキリは本月末 ◎ほかが霜条の金山柏樹師あて投句のこと ◎入選句をかわにし俳壇に掲載する。

#### 役場の正月休み

二十八日は役場の御用納め。業務に支障のないかぎり、二十九日から三日までお休みをいただく。

#### 庁内人事

太田真代(みちよ 庶務係り)さんが、十二月一日付で社会係りを命ぜられた。国民年金を担任。

### かわにし俳壇

金山 柏樹選  
田中 半藤 一風  
見覚えし掛大根の家とだけ  
枯れてゆく菊に支えの棒残り  
若瀬 金子 胡月  
枯れいそぐ白樺林池の面に  
積すむという峰つゞき冬めける  
中仙田 小林 遊人  
干しかたの違ひ家々大根干す  
越ヶ沢 小川 辰治  
薪を割る聲はけしきなりけり  
霜条 大海 白濁  
八海に三たび雪来し笠を刈る  
下原 丸山 仁子  
下宿する子の荷造りや暮早し  
新町 若山 恭庸  
煙草完納おえて子らへの冬仕度

### 後記

◎講座・学級・会議・出張・そしてこの原稿書きでした。いくらやっても足りない仕事、目には見えなくてもたいせつな仕事、それが社会教育なのです。

◎「これだけはせし」と頼まれたことも山ほどありました。でも、その全部を掲載できなかったのです。かんにんしていただき。

◎仙田の婦人会のみならず、ご希望の講座は校区単位に開設できないことになりました。一月以降に、部落の学級へ何うことにいたします。

◎これが積雪になるのではありませんか師はずの風が身にしみます。ことしもあとわずか、未整理のものはきれいさっぱりしてください。みなさま、どうぞよいお年を。